

稲雲

第24号

発行
OB会事務局

稲雲発行にあたって

OB会幹事長 小林 良夫

(S52年卒)

yoshio_kobayashi@om.jp.np.hp.com

新年度に当たって

監督 井熊均

OB会幹事長 白田 裕一
(S49年卒)

御挨拶

前会長 松原さん(S47年卒)からバトン・タッチを受けて、早くも1年以上が経過いたしました。OBの方々には、毎年11月3日に開催されております総会の席で御挨拶させて頂いたのみで、大勢の方にはそのままで大変失礼しております。この場をお借りして先ずお詫びを申し上げますと共に御挨拶させていただきます。

「二」数年、我等がOB会も一般の企業の例にもれず、世間の荒波に揉まれております。即ち、金融機関の再編、更にはOB会幹部の転勤等により、当OB会費の自動振込システムが機能しなくなる、との危機的状況に到りました。この状況を、現OB会幹部の方々の知力・根気・腕力(?)により、乗り越える事が出来、昨年末、再度、OB会費自動振込システムの再開に漕ぎつきました。それ迄の間、心優しくも催促なしで(OB会の為にお金を立て替えて戴いた方々に御礼申し上げますと共に、上述システム再開の際の混乱から不本意ながら御迷惑を掛けた方々には申し訳ないと思っております。

御報告が遅くなりましたが、長年理工ポート部の顧問を務めて戴きました林 郁彦先生が早稲田大学を御退職されました。御後任として、林研究室を継がれた浅川先生に顧問御就任をお願い致しましたこと、快諾を戴き、昨年11月のOB総会に御出席戴きました。今後は、浅川先生のお智慧も拝借しつつ、OB会役員を含めてOBの方々と当OB会の役割、現役への寄与方法等を探って行きたいと考えます。

幸いにも、現監督・コーチ陣の弛まぬ支援の下、現役の大きい努力により部員数も近年増加傾向にあり、レースでの戦績も向上しています。今後、現役と連携し、レース日程・結果等を「WEB」等を活用する事により安価でスピーディーにOBの方々に御連絡する事も今後検討していきたいと考えております。

上述の通り、OB会は本年改めてスタートを切りましたが、今後共、現役並びに当OB会に対するOBの方々の物心両面からの絶大な御支援を宜しくお願い致します。

理工ポート部OB諸兄の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

平成5年の夏に私の同期である宇田川君よりOB会幹事長(当時は事務局長)を引き継ぎあつという間に5年間が過ぎてしまいました。この間、稲雲の発行も第23号(平成6年5月発行)を最後に事実上休刊状況にあり、OB会の活動としては毎年11月3日(文化の日)に現役・OB懇親会(理工ポート部OB総会)を開催するに留まっております。この5年間、OB総会を開催し毎年多数のOBの方に「ご参集いただくことにより、OB相互のコミュニケーションの場として一応の成果はあがりつつあると思えます。しかしながら、OB総会だけでは毎年の現役の活躍状況などを広くOB会員の皆様にお知らせするには不十分であることは明らかです。よって、ここに遅まきながらOB会幹事会の怠慢を陳謝するとともに大いなる反省の意を込め稲雲を発行させていただきます。

さて、OB会の皆さんはNPO(Non-Profitable Organization)という言葉をご存知でしょうか。一般の企業組織(For-Profitable Organization)と対局に位置する組織のことです。私があらためて説明するまでも無く、一般の企業組織は収益(Profit)をあげる目的のために存在します。また、投資家は企業に投資することにより収益の分配(Return)を期待します。誠に分かりやすい構図がここに存在します。乱暴に言えば、お金の関係で結びついているのがPOといえます。NPOは収益を目的としない組織のことです。我々の理工ポート部OB会がNPOであることは言葉を待ちません。POは収益をあげるといふ目的で結束しています。NPOを結束させるものは何でしょうか。とても難しい課題です。OB会の活動を手がけるにあたりよく自問自答を繰り返していますが、答えは見つかっておりません。少なくとも、見返り(Return)を期待する対象でないことは明らかだと考えます。皆さんはどのようにお考えでしょうか。是非ご意見を賜りたいと思います。

稲雲が発行される頃には、戸田のポートコースも桜のシーズンを迎えていることでしょうか。いよいよポートシーズン開幕の季節です。昨年の現役諸君の活躍に満足すること無く、今年も更に一段と飛躍を期待したいものです。今年も戸田にてお会いできることを楽しみにしております。現役を含めOB会への「ご支援」ご協力をお願い申し上げます。

昨年度は久々にインカレ、ジュニアのフォアで賞状をとったことは喜ばしいことである。しかし、残念というか、やや分らないこともあった。それは、こうして上り調子にある時に何人かの新人が艇を降りたことである。

自分はポートを学生スポーツとしてやっている以上、何故やっているのか、という意義を持って欲しいと思う。しかしながら、恐らく20代前半、しかも社会経験が無い状態で何故ポートなのか、という意義を持つことは容易ではないだろう。であるから、こうした話をOBと現役の交流の中で伝えられることが望ましいと思う。そう思う一方で、たとえ、OBが熱をもって語ったとしても、所詮それは他人の人生経験に基づく他人の価値判断であるから、どれほど世代の離れた現役が信じられるか、という疑問は湧く。

自分が40に達し、この激動の世紀末にあつて、現役諸君に是非とも理解して欲しいと思つのは、感性を身に付けることの大事さである。先輩が若き日を思い出し、熱く語る言葉は聞く人にとってその時現実感がなかつたとしても、その人が誠意をもって語っているのならば、そしてそれに誠実に耳を傾けるのであれば、必ずや言外にある種の真実味が伝わるはずである。人の人生にとつての真実とは、その体験と同時に認知されることはむしろ少ないことを知らなくてはいけない。問題なのはいかに真摯な状況に對峙し、いつの日か現実感を増してくるであろう体験を重ねるか、なのである。そうした理解があれば、感性とかけ離れて見えるスポーツの現場とは、まさに将来開花するであろう感性の種苗なのであり、感性という言葉で語られている真剣味の無い世界は時間とともに霧散する幻影ではないことが分かるはずである。

最近、社会変革に関する本を書いたりすることもある。何故日本が今のよつな体たらくとなつてしまったのだらうか、ということを考える。そして、自分だけではない、こうした命題に心を寄せる識者の多くが到達するのは教育のあり方である。そのゴールである大学にも多くの問題があると思う。さらに、現状その場にいる人、あるいは問題があることに對して何らの対策を打ってこられなかった人には気の毒だが、そうした問題のある無しにかかわらず、時代はここ23年で必ず変わる、というも識者の間での共通した認識である。その時に必要なのは判断の基準を持つていることであり、そこで不可欠なのが個人としての感性なのである。

冊は出すだらう。しかし、自分が何冊本を出さつて、個人の価値観において決して超えることができないと思つているものがある。それは、27才の時に書いた理工のコーチングマニュアルである。何故なら、たとえ記述としての稚拙があつたとしても、それこそは若き日に感性を傾け、祈りを込めて書いた渾身の作であるからだ。今年、単に成績だけでなく、ポート部という原体験の場としての存在を皆が共有できるようになつて欲しい。諸君が若輩であるからこそ必要なのは、目の前の具体にはかり囚われず、言外に伝わるSomethingに耳を傾ける姿勢である。

学生を代表して、主将とヘッドコーチに
今年の抱負を寄せていただきました

今年の抱負

主将 中原陽一

後期試験も終了し、今年も長い合宿生活が始まりました。今シーズンは修士1年2名の先輩方も合宿入りを果たし、例年とは一味違った雰囲気での練習を行つております。昨年度は対校フォアがインカレで6位入賞、全日本新人選手権で決勝進出での4位入賞と部として大きく弾みのついた1年となりました。これを受けまして、今年度は全日本クラス2000mレースでのメダル獲得を目標としまして、上記の両先輩クラス4年生2名、ならびに全日本新人選手権で活躍した3年生7名を中心により高いレベルでの技術、体力の向上に日々精進しています。近年各大学ではサークルの会員数の減少が深刻化しており、我が部も今年度の2年生の合宿者が5名とその例外ではありませんが、部員状況は決して明るいものではありませんが、今年、何とか昨年以上の成績を残し、強い早大理工をこれから入学する新入生、あるいはOB、OGの方々に実感して頂けるよう部員一同努力していきたいと思ひます。

最後になりましたが、OB、OGの方々には例年同様宜しく御指導、ご支援下さいますようお願いいたします。今年度の抱負と換えさせていただきます。

今年の抱負

1999年度ヘッドコーチ 薄 達也

今年も例年通り2月初旬に合宿入りしました。今年度の合宿入りの段階でのクルーは、上級生による舵手付きフォア2艇、シングルスカル2艇、1年生のダブルスカルを2艇と致しました。昨年のOB・現役懇親会等では、「今年はエイトでがんばりたい」と意気込んでいたのですが、この春の段階の目標の1つとして、小艇を使った体力向上を行いたいということ、残念ながら昨年と同様に腰痛等の故障を持つものが生じたということもありました。そのため、この段階ではエイトは組まずフォアで練習をする事に致しました。また、フォアも対校艇は作らずに2艇とも同じくらいの力になるように組み、並べを中心とするロングの練習を多く行っています。今後しばらくはこの方針で練習を積み、故障者の様子をみて3月中旬を目途にクルー替えを行って、後々はフォアか、できればエイトの対校艇を組み、工科系やその他全日本級の大会に臨みたいと思っています。

今年のクルーは、昨年度の全日本新人において4位に入賞した新3年生を中心に、昨年度の全日本大学選手権において6位に入賞したクルーのうち、2年生であったバウの荒生君、当時4年生であった2番の神谷君、コックスの中林君と共に合宿入りをして、下級生と同じクルーに乗ってくれています。どの大学も部員不足が問題となっており、我が理工漕艇部も部員数の減少が深刻な状況にあるのは同じです。しかし、現在の合宿者は実績のあるものばかりの少数精鋭であり、今年は最近より調子であるこのクラブの雰囲気をもっと盛り上げてくれそうな予感がしています。

現役ともども充実した年になるようがんばっていきましょうと思っていますので、OBの方々、温かい目で見守っていて下さい。また、ご都合のつきまます時には、是非試合を観に戸田まで足を運んで下さい。宜しくお願いたします。

追伸

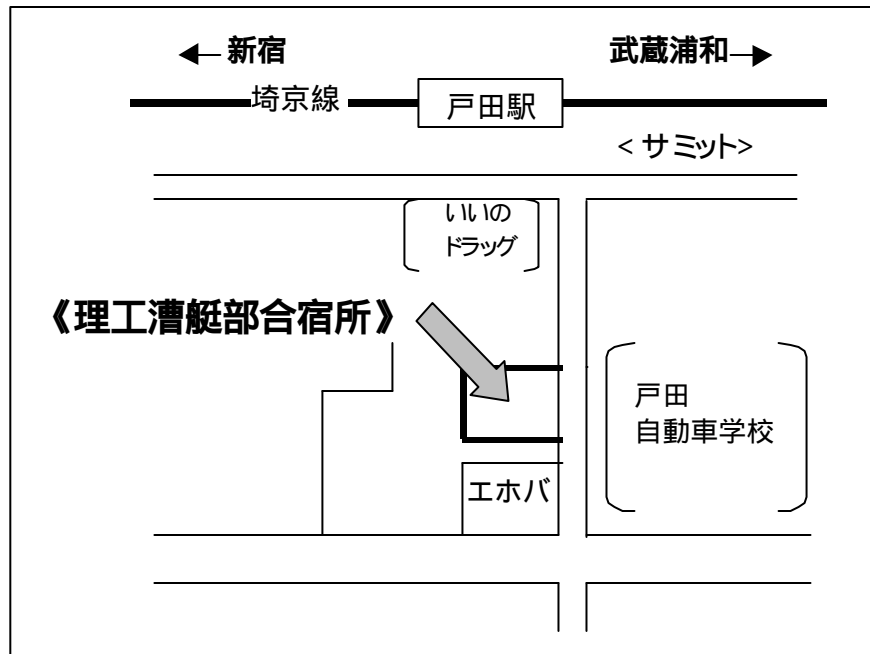
合宿所が移転しております。

住所 埼玉県戸田市新曽77番地
電話番号 (048-446-0368)

電話番号は以前と変わりありません。

最寄駅は、埼京線戸田駅になります。戸田自動車学校の、道路はさんだ隣の場所で、「エホバ王国」が隣

にあります。(本当です。毎週日曜日になると集会があるのか車の出入りが激しくなります。) 大まかなものではありませんが、合宿所への地図を描いてみました。是非お立ち寄りください。



^^^ 理工漕艇部ホームページのお知らせ vvv

現在、早稲田大学理工学部漕艇部にはインターネットのホームページがあります。現役部員、大学院生が運営しています。

ホームページのアドレスは

<http://eca.web.waseda.ac.jp/eca-g-rikboat>

です。インターネットに接続可能な方は、是非アクセスしてみてください。最新のレース結果等を掲載していく予定です。

^^^ 今年度の主な日程は左記の通り vvv

月	日	大会名	会場
4月	18日(日)	早慶レガッタ	隅田川桜橋付近
5月	2日(日)	関東理工系レガッタ	戸田ボートコース
6月	3日(木)~ 6日(日)	全日本選手権	戸田ボートコース
	19日(土)~ 20日(日)	東日本大学選手権	戸田ボートコース
7月	2日(金)~ 4日(日)	全日本軽量級選手権	戸田ボートコース
8月	14日(土)~ 15日(日)	東日本選手権	戸田ボートコース
	26日(木)~ 29日(日)	全日本大学選手権	戸田ボートコース
10月		新人戦	
11月	3日(水)	OB総会	大隈会館

なおレース日程については、今後変更になる可能性もあります。また、理工ボート部の出漕が未定であるレースも含まれています。詳細は合宿所等へお問い合わせ下さい。

^^^ 編集後記 vvv

今回、ボート部の初漕ぎを機に稲雲作成の準備を開始いたしました。現在、ボート部員は人数が多くないため、現役部員の皆さんが心と力のこもったお結びでOBもてなしてくれました。参加されたOBの皆さんは、腕に覚えのある方もそうでない方も久しぶりにオールの感触を楽しまれていたようです。

なお稲雲に関しましては今後も引き続き、年間2回を目標に発行していきたいと考えております。忌憚無きご意見と、投稿をお待ちしております。(稲雲編集部) 50行24文字